



努力のつぼ（壺）

校長 作田潤一

人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から“努力のつぼ”をもらうそうです。そのつぼは、人によって、ことごとによって、いろいろな大きさがあり、目には見えません。

つぼの中に一生懸命に「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか「努力」が溢れる時、願っていたことが叶うのです。

私はこの話が好きです。くじけそうになった時に、あともう少しの「努力」で、つぼが溢れるのでは、と自分を励まします。

先日の学習成果発表会で、それぞれの生徒の“努力のつぼ”が溢れている姿がありました。発表、合唱、劇、壁新聞、……。生徒自身も自分の成長を確かめたり、「来年は・・・」と新しい“努力のつぼ”を手にした様子があります。

私が“努力のつぼ”の話を知ったのは、『子どもを変えた親の一言』という作文集です。作文を書いた小学一年生は、母親に“努力のつぼ”の話をされ、「つぼが大きいととても大変だけど、中味がいっぱいあるから、あなたのためになるのよ。」と励まされるのだそうです。

努力はすぐに成果として現れません。ある時点でプラトーと言われる「努力しても成果が現れない時期」が訪れ、努力が目に見えない形で蓄積され、飽和状態になったその時、器から水がこぼれるように急激な伸びを見せるのです。

一度壁を乗り越えた経験は、自信となり他の場面にも波及していきます。プラトーの時期に、くじけそうな心を支えることができるのは、親や教師の励ましの一言ではないでしょうか。

学習成果発表会 NIE発表会

10月15日(土)に、学習成果発表会が行われました。今回の学習成果発表会は、3年ぶりに保護者の方にご来場いただき、合唱コンクールのみではありますが、生徒たちの頑張る姿を見ていただくことができました。



午前中に行われた合唱コンクールでは、どのクラスも精一杯の歌声を響かせ、これまで朝早くから昼休みや放課後の時間を使って練習を積み重ねてきた成果を出そうと、真剣な表情を見せていました。

午後に行われた各学年のステージ発表では、総合的な学習の時間の中で学んだことや感じたことをもとに演劇を行い、全校生徒に様々なメッセージを届けてくれました。見ている生徒は、御船町の歴史、御船町のために頑張っている方々、これからの御船町をさらに盛り上げようと試行錯誤されている方々などについて知るとともに、今の自分たちが安心して生活していく中で、多くの方々に支えていただいているということを実感できたようです。

また、学習成果発表会と並行して、NIEの実践発表会も行われました。新聞を活用した学習活動や体験活動などの様々な取組や生徒の姿を、地域の方々やお世話になった方々に紹介しました。

このように、1日を通して御船中生の頑張りとその成果を、地域の方々に見ていただくことで、参加された方からは、「非常に感動した。」「これからも応援しています。」など、お褒めの言葉や励ましの言葉を多くいただくことができました。これを励みに、今後も全校生徒が一丸となって今後の学校生活に一生懸命取り組みながら、さらに素晴らしい御船中学校を目指していきます。

地域恩返しプロジェクト

地域恩返しプロジェクトは5月に行われた生徒総会で「御船中生徒会として地域のために何か恩返しをしたい」という提案から、自分の出身小学校やその周辺を清掃するという案が可決され、10月26日(水)に全校生徒が参加して実施されました。3年生の生徒は「地域を見つめるいい機会になりました。これからも地域に自分のできる恩返しをしていきたいです。」と感想を述べていました。



講話

10月28日(金)に三井不動産株式会社顧問で三井ホーム株式会社常任相談役の市川俊英さんを御船中に招いて講話を実施しました。市川さんは八代市出身で、東京ミッドタウン開発事業等に携わってこられました。



市川さんは「可能性は自分の心の中にある」という演題で「自分で自分の壁を作らない。あなたの考え方で人生は変わる。『私はできる』と思い続けることが大事だ。」と語られました。生徒からは「高い目標に向かって、小さなことから一生懸命に取り組んでいこうと思いました。」と感想が聞かれました。

郡中体連駅伝大会 女子2年連続優勝！

10月14日(金)に上益城郡中体連駅伝大会が開催されました。女子はAチームが2年連続優勝を成し遂げ、Bチームは7位でした。男子はAチームが昨年度から順位を3つ上げての3位、Bチームは8位でした。また、吉田桃香さん、田上碧海さん、増村凌久くん、権東伶音くんが区間賞に輝きました。全選手とも夏休みから積み上げてきた練習の成果を発揮しました。女子チームは11月11日(金)に開催される県大会に出場します。

